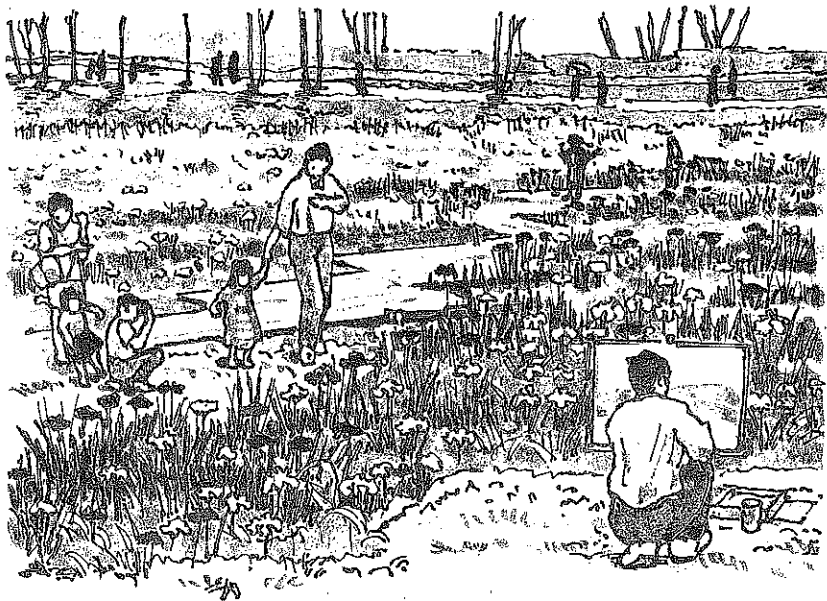


三 市民しみんの森のはなしようぶ

宮崎市の市民の森では、きせつによって
うめやつばき、あじさいなどの花を楽しん
だり、広場であそんだりすることができま
す。なかでも、毎年五月から六月にかけて
ひらかれる「はなしようぶまつり」では、
たくさんの方が花を楽しみにやってきま
す。はなしようぶは、宮崎市の花としてし
たしまれている花なのです。
あゆみさんはこれまでも市民の森に来
てあそんでいます。今日は家ぞくそろっ



て、市民の森に出かけました。

はなしょうぶ園では、さきそろうた花をおおぜいの人を楽しんでいます。しゃしんをとっている人もいれば、絵をかいている人もいます。おべんとうを広げている人たちもいます。あゆみさんたちも、はなしょうぶ園を一しゅうしながら、あちこちでしゃしんをうっしました。

「つぎは、どこでとろうか。」

と言うお父さんのことばに、あゆみさんは、

「花の中がいい。」

と言って、花の中に入っていきこうとしました。その時、お母さんがあゆみさんのうでをぐっとつかんで、

「入っちゃだめでしょう。」

と言いました。あゆみさんは、

「どうして。ちよっとぐらいいいじゃない。花の中でしゃしんをとりたいの。」

と言いました。お母さんは、

「あなた一人の公園かしら。」

と、少しきびしい顔で言います。あゆみさ

んは、ちよつと口をとがらせながら小さい

声で

「はあい。」

とこたえました。

おべんとうを食べはじめても、あゆみさ

んの気もちはなんとなくすつきりしませ

ん。そうしているうちに、中央ちゆうちゆうのステージ

に人があつまりはじめました。あゆみさん

はお父さんに

「なにがはじまるの。」



とたずねました。お父さんは、

「この市民の森をまもるためにがんばってくださっている人たちのひょうしょうしきがあるんだよ。みんなが楽しくすごせる公園にするために、花をうえたり、そうじをしたりしてください。人がたくさんいらっしやるんだ。その人たちのおかげで、こうしていつでも気もちよくすごすことができるんだよ。」

とおしえてくれました。

あゆみさんはそのことばを聞いてはっとしました。

